小学校部会　授業研究会の記録

【授業者ふりかえり】

発 表 者	内　　容
授業者	【6年　体つくり運動】 ○　動画内では声が聞き取りづらかった。本時はピンマイクを使用。児童の声は通っていた。今後動画でとる際の参考にしていきたい。 ○　ひなたプログラムの内容は自分で選択させたが、仲間との関わりが少ないものが主となっている。コロナの影響もあるが…。もう少し関わりをもたせるなど、運動のバリエーションをもたせるとよかった。 ○　長縄移動式の際、縄の持ち方の安全面に気を付けなければならない。縄を短くするために、手にぐるぐる巻きにしている児童がいるが、引っかかった際にパッと離せないと危ない。安全面での配慮も必要。縄を回す人・跳ぶ人など偏りがあり、運動量や運動機会の平等性が保たれていなかった。交代するように指示をしていたが、なかなか見とれず、工夫が必要であった。学習カードの記述の時間は5分では足りない。10分か、それ以上が必要。活動途中で見返す時間もあるとよかった。 ○　評価の観点 【学習カードから思考・判断・表現力の具体的な観点】 A 評価…「動きの内容」「何が高まったか」「動きのポイント」「次時の目標」 例）～をして～が高まった。～したら上手くできた。図で表現している。 B 評価…～をしてどうなった。～したらできた。 C 評価…できたかできなかったのみ。漠然とした内容で具体性に欠ける。 学習カードの記入を続けることで、記述面での変容が大きく見られ、C 評価の児童が A 評価になるなど自己評価の高まりが見られるようになった。試行錯誤のあとが見られ、裏面にまで書く児童も増えてきた。掛け声を「はい」ではなく「せーの」の方がよかったという児童の意見を見ると、試行錯誤をした様子が見られた。

【質疑応答】

【6年　体つくり運動】

Q.　Y 先生…　ひなたプログラムで子供たちは自分の課題をどのように見つけたのか。例えば全部やってみて、自分ができなかったものを行うのか。または、資料からできなさそうなのを選んでやったのか。

A.　授業者…　1時間目のオリエンテーションで全部一通りやってみた。その中で自分が上手くできなかった、やってみたけど全然柔らかくないなど課題を発見させ、次時に生かした。

Q.　M 先生…　個人の課題となる運動は毎時間固定させるのか変化させるのか？また体力テストとの関連させての指導なのか？

A.　授業者…　個人の課題やペアの課題については教師側が決めていない。変えなさい、同じのを

	やりなさいとも言っていない。課題はそれぞれのペア次第。昨日よりも高まった、もっと高めたいなどを学習カードのレーダーチャート等を活用して考えるため、ペアによる。体力テストとの関連は、今年度体力テストが未実施のため行っていない。しかし、振り返りの中で昨年の記録と比較するなど関連させることは効果的である。

【全体協議】体つくり運動の学習

柱1　カリキュラム・マネジメントの工夫、ひなたプログラムの計画的な活用 柱2　思考力・判断力・表現力等を育成するための学習カードについて 柱3　思考力・判断力・表現力を高めるための授業の在り方	
A　　A 先生	… 思考力・判断力・表現力を育成するための学習カード・授業について協議
○ 学習カードついて	… 高学年での記述の仕方や活用は理解できたが、低学年ではどのように活用するかが課題。記述が苦手な児童にはどのように指導・評価していくかが課題である。
○ 授業について	… 何をもって高まったのかを子供が理解することが大事。回数が増えた、速さが速くなったなど視点がたくさんあったが、例えば速さが同じで回数も同じだが最初は引っかかることが多かった。けど、繰り返すことで引っかからずに跳べるようになった。これも高まったといえるのではないか。このようなことを理解させる時間の設定なども必要かと思う。授業の途中で止めることは、いい例、いいポイントを示すことは効果的だった。だらけず、集中して1時間取り組めた。タブレットの活用も大変勉強になった。
B　　T 先生	… ICT はとても有効であった。子供たちが積極的に話し合うよい機会となる。道具がたくさんあることで子供たちの多様な考えに寄り添い、運動の意欲の喚起へとつながる。活動を止める回数も少なく、ポイントを絞って指導されていたのでよかった。B でも動きの高まりとは何をもって高まりとするのかが話題になった。子どもの中で、何をもって動きが高まったとするのかゴールイメージが明確でないといけない。それによって子供の課題は変化するし、教師の発問も変化する。子供たちの工夫の面でも指導者の意図に合ったものになるかと思う。これが子供たち全員に伝わっていないといけない。それによって評価も変わってくると思う。今後は、動きの高まりをどのように指導・評価していくかを考えていくのか課題である。